

## 山ぼうし

第22号 平成19年 1月31日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、  
花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし  
の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



## 本州最東端「ものづくりができる 人づくりの町」宮古

### 校長 及川 敏 昭

宮古市は昨年田老町、新里村と合併し、人口6万3千人で本県沿岸のほぼ中央に位置している。北上高地、閉伊川、太平洋に抱かれ、未来へ無限の可能性を秘める一方、内陸との格差、人口減少という課題も抱えている。

「東京から最も時間距離が遠い市」といわれてきた港町・宮古には、この地で生産されたコネクタ（接続機器）が携帯電話やパソコンなどの部品として世界に広がっており、宮古市の主要産業として注目されている。

宮古にこのような先端技術産業が進出した理由は「大手企業が進出しない地方にあえて立地することで、優秀な人材を確保するという社の方針があった。」からだそうだ。

情報技術（IT）製品の急速な技術革新で、関連市場は今後も成長が続くと見込まれており、企業の支援体制と地元の人材育成が大きな課題となっている。

昨年、3月の宮古管内高校卒業者のうち管内に就職した122名のうち67名がコネクタ・金型産業に就職しているが、そのうちの40名が本校卒業生である。5年後・10年後にはこれら若者達の地域産業振興発展に果たす役割は極めて大きくなっているはずだ。今年も41名の生徒がこれら地元企業に内定を頂いている。

昨年末に発表された日本の将来推計人口

によれば、日本の50年後の人口は現在の一億三千万人弱から、約三千万人減少し九千万人を割ってしまうそうだ。

百年後にはさらに減り続け、現在の三分の一の四千五百万人になるとのことで、日本の将来に赤信号が点滅している。日本が今の豊かな暮らしを今後とも維持するには、世界的基準に照らして、モノやサービス・人材・アイデア、文化など世界に胸を張って誇れるような日本発の「世界一」を増やすことしかないのである。

日本に世界一は一体いくつあるだろうか。例をあげると鹿児島県の桜島大根は世界一大きい大根である。また、法隆寺は世界一古い木造建築である。トヨタの「カローラ」は車名別生産台数世界一の自動車だ。そして我が日本は世界一の長寿国である。

また、日本の製造業の中にはハイテク製品の製造に無くてはならない部品や素材で世界一のシェアを占める企業が何百社とある。こうした日本製の「世界一」が私達の豊かな暮らしのもとである。

日本には人口6万人台の市が最も多いそうだ。工業振興やものづくりに本格的に取り組んでいる地域が少ない中、東京から遠く離れた宮古市で新しい「ものづくり」と「人づくり」ができれば、全国のいろいろな地域に夢と希望そして勇気を与えることができると思っている。

### 電気工事士試験 難関突破おめでとう！

過日行われた平成18年度第1種電気工事士（10月筆記・12月技能試験）で電気科2年生の2名（佐々木大地君、高岩祐生君）が難関を突破し、見事合格した。両名とも2年生から第2種電気工事士の勉強を始め、合格後、1種に取り組んだ。2年生での合格は、昨年、電気科で1名が合格したことに続く快挙。

### 2月行事予定

- 2月 2日（金）～ 7日（水）3学年定期試験
- 2月 7日（水）いきいき宮工2006発表会
- 2月 8日（木）～14日（水）1・2年定期試験
- 2月 9日（金）PTA母親委員会
- 2月13日（火）学校評議員会
- 2月16日（金）進路ガイダンス
- 2月23日（金）就職ガイダンス
- 2月28日（水）卒業式予行、同窓会入会式
- 3月 1日（木）卒業式



# 3年生の進路、100%決定へ

1月18日現在、本校の今年度卒業生の進路が、就職者、進学者を含めて全員確定した。

昨年7月の求人票受理開始、9月16日の就職試験開始から始まった就職活動、そして秋口から年明けまでかかった進学希望者の受験勉強や小論文学習など、今年も多くのドラマが見られた。

今回の進路へ向けた3年生の動きは、例年に比べるとスタートが遅い印象があったが、いったん目標が定まると、どの科も正担任、副担任そして生徒たちが一丸となって邁進する姿がさわやかであった。

作文学習、面接指導、進路へ向けた個人面談、受験勉強など、多大な時間を割いて真剣に自らの進路と向かい合った時間は、おそらく今後の生徒たちの人生にとっても大きな財産になることと思われる。この場をお借りして、ここまでお世話になった就職支援相談員の伊藤恒雄氏、そして保護者の皆様方に重ねて厚くお礼を申し上げます。(進路指導部)

平成18年度本3校卒業生内定・合格者数

	機械科	電気科	電子機械科	設備工業科	合計
管内	23	3	10	5	41
県内	3	0	3	2	8
県外	9	3	8	12	32
県内他業種	0	0	1	0	1
県外他業種	0	0	1	0	1
公務員	1	0	2	0	3
その他	0	0	1	10	1
合計	36	6	26	19	87
大学	1	1	4	1	7
専門学校	0	6	7	3	16
各種学校	1	0	2	0	3
合計	2	7	13	4	26

## 第17回岩手県高等学校工業クラブ連盟 生徒研究発表大会・作品展示部門に参加して

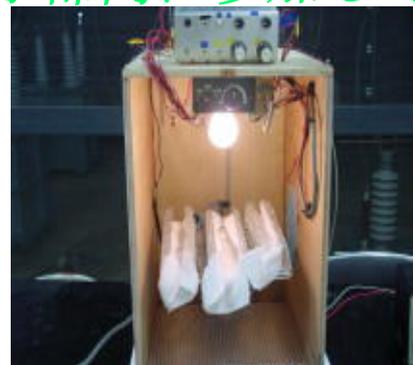
1月25日(木)に北上市文化交流センター「さくらホール」にて、県高等学校工業クラブ連盟生徒研究発表大会がありました。作品展示部門に電気科3年野澤優翔君・森田春香さんの課題研究



ふ化した「ヒヨコ」

作品の「有精卵孵化器の製作」が参加しました。

作品の内容は、電気と自然の結びつきを考え、ニワトリの有精卵を電球で温めて孵化させようというものです。昨年度からの2年がかりのテーマで、昨年度は何度も挑戦しましたが孵化しませんでした。卵を何度も交換したり、温度設定や湿度を調整したり、雌鶏に見たてた孵化器内に新鮮な空気を入れるため換気扇等をつける工夫をして、2匹のヒヨコを生ませることができました。ふ化する瞬間の感動をビデオで撮影したり色々工夫しました。



出展作品「有精卵孵化器」

孵化器内に新鮮な空気を入れるため換気扇等をつける工夫をして、2匹のヒヨコを生ませることができました。ふ化する瞬間の感動をビデオで撮影したり色々工夫しました。

作品部門7つの研究テーマの中で、生徒達はよく頑張り奨励賞を頂きました。

## 津波模型 ぼうさい甲子園 奨励賞受賞!

「ぼうさい甲子園(1・17防災未来賞)」は、阪神・淡路大震災10年を機に、平成16年度から毎日新聞社と兵庫県が共催で実施しているものです。今年度は小、中、高校、大学の4部門に、26都道府県から計120校・グループの応募がありました。そのぼうさい甲子園へ本校の「宮古湾周辺模型～模型を通じた津波防災へのアプローチ～」が、高校生部門に応募し、奨励賞をいただきました。(奨励賞は、第3位相当)

宮古湾周辺模型の研究が報道機関や全国産業教育フェアなどの様々な大会で展示・発表されたことをうけて、毎日新聞社から参加のオファーをいただいたものです。実際のところ、それまでは「ぼうさい甲子園」という名前も知らなかったのですが、この大会の趣旨や、全国各地の防災教育に取り組み学校の研究活動報告を見て大きな刺激を受けたのがきっかけで応募を決めました。初めての応募で、このような大きな賞をいただいた事を嬉しく思うと共に、防災ということで地域の皆様をはじめ、たくさんの方々のご協力にこの場をかりて感謝申し上げます。大会の様子・結果等は下記アドレスを参照下さい。(1月6日付の毎日新聞全国版で大きく取り上げられています。)

<http://www.mainichi.co.jp/kouken/bousai/>

